

## 世界史探究 (旧世界史B)

世界史探究 (旧世界史B)

[I] 次の文章を読み、後の問(1～4)に答えよ。

ギリシアでは、紀元前800年ごろから各地にポリス(都市国家)が形成された。①人口が増加すると、ギリシア人は前8世紀半ばから植民活動にのりだし、植民市を地中海沿岸各地に建設し、交易活動を活性化させた。ポリスでははじめ貴族が政治を独占したが、富裕な平民があらわれ、重装歩兵として国防の主力となり、参政権を主張すると、民主政への歩みが始まった。アテネでも、前6世紀に(1)が財産政治を導入し、(2)が陶片追放制度(オストラキスマス)を導入するなど、民主政の基礎が築かれた。

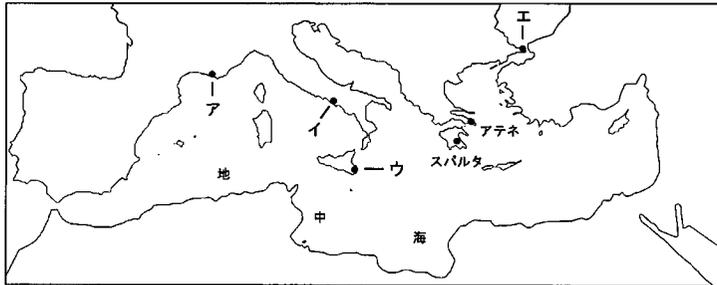
前5世紀前半には、(3)朝ペルシアがギリシアに侵攻し、②ペルシア戦争がおこった。アテネを中心とするギリシア軍は、前480年の(4)の海戦でペルシア艦隊をやぶり、翌年にはプラタイアの戦いでもペルシア軍に勝利した。戦後、アテネでは、(4)の海戦で活躍した下層市民の発言力が高まり、前5世紀なかばごろ、将軍(5)の指導のもとで民主政が完成した。他方でアテネは、ペルシアの再侵攻にそなえて他のポリスと(6)同盟を結成した。こうしてアテネが勢力を広げると、スパルタとの対立が深まり、前5世紀後半に(7)戦争がおこった。スパルタはこの戦争に勝利して勢力を強めたが、前4世紀前半に(8)と戦って敗れたため、それも長くは続かなかった。

前4世紀にはいると、ギリシア北方のマケドニア王国が勢力をのびた。その王(9)は、前338年のカイロネアの戦いでアテネと(8)の連合軍をやぶり、ギリシアの諸ポリスを服属させた。(9)の子のアレクサンドロスはペルシアを討伐するための東方遠征をおこなった。彼はペルシアを滅亡させ、ギリシアから(10)川流域にいたる大帝國を建設した。しかし、前323年に彼が急死すると、部下の将軍たちがたがいに争い、やがて、マケドニア、シリア、③エジプトなどの諸王国が分立することとなった。

問1 空欄(1)～(10)にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部①について、ギリシア人が建設した植民市のうちのひとつにネアポリス

がある。下の地図中のア～エのうち、ネアポリスの場所を示すものをひとつ選び、記号で答えよ。



問3 下線部②について、ペルシア戦争に関する次の文中の空欄 ( X ) と ( Y ) に入れる語の組み合わせとして正しいものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

歴史家 ( X ) は、『歴史』でペルシア戦争の歴史を物語風に描いた。ペルシア戦争における勝利は、東方の専制政治に対するアテネの民主政の勝利と考えられ、アテネ人に自信をあたえたが、この自信は異民族を ( Y ) と呼んで蔑視する意識を強めた。

- |   |              |           |
|---|--------------|-----------|
| ア | X — トウキュディデス | Y — パルパロイ |
| イ | X — トウキュディデス | Y — ヘレネス  |
| ウ | X — ヘロドトス    | Y — パルパロイ |
| エ | X — ヘロドトス    | Y — ヘレネス  |

問4 下線部③について、アレクサンドロスの死後に成立したエジプト王国に関する次の文章ア～エのうち、正しいものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア アレクサンドロスの武将の一人であるセレウコスが王朝を創始した。
- イ 首都アレクサンドリアには、ムセイオン (王立研究所) がつくられた。
- ウ 幾何学を大成したアリストファネスなど、すぐれた科学者を輩出した。
- エ 最後の女王クレオパトラがアントニウスに敗れて自殺し、滅亡した。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、後の問 ( 1～7 ) に答えよ。

唐代の中国の華北には、多くの突厥系の人々が移住し、なかには唐に仕えて節度使の地位を得て、①財政権・軍事権を持つ軍閥を構成する者もいた。9世紀おわりに唐が南方の反乱で弱体化すると、反乱勢力から唐に帰順した ( 1 ) が唐で実権を握り、907年に唐を滅ぼし、後梁をたてた。以後、華北では五つの王朝が交替し、華中・華南には小国家が並立した。これらの国家を総称して ( 2 ) といい、この時代を ( 2 ) 時代という。華北の王朝の多くは突厥系軍閥を基礎として成立したものであった。

一方、②10世紀にはユーラシア東部において諸勢力の自立が進んだ。そのなかで中国に最も大きな影響を与えたのが契丹である。6世紀から中国の史料に現れる遊牧・狩猟民の契丹は、唐が滅亡した同じ年に ( 3 ) を君長とした。華北に進出した ( 3 ) は③漢人も登用し、916年に国家をたてて皇帝となった。936年には華北の後晋を援助した見返りに現在の北京・大同一帯にあたる ( 4 ) を獲得し、ユーラシア東部に強勢を誇った。

宋 (北宋) が ( 2 ) 時代に終止符を打ち華中・華南をも支配下におさめると、契丹と宋が対峙する情勢となった。軍事的に優勢であった契丹は11世紀はじめに宋に侵攻したが、宋側からのほたらきかけもあって④両国の間では和議が結ばれた。以降、契丹・宋の間では全体として安定した共存関係が実現した。

この関係は、( 5 ) の台頭により大きく変化した。中国東北部の半狩猟・半農耕民であった ( 5 ) は、はじめは契丹に従っていたが、やがて自立し、1115年に完顔阿骨打が皇帝となり金をたてた。( 4 ) の奪回をもくろんだ宋は金と結んで契丹を滅ぼしたが、のちに金との約束に背いたため攻撃を受け、1127年に首都の開封を奪われた。江南に逃れた皇族の高宗は宋を再興した。これ以降の宋を南宋と呼ぶ。

金は ( 5 ) 人に加え⑤契丹人などの遊牧・狩猟系の人々を軍事・行政に用い、⑥部族制を再編して軍事・行政組織を整えた。宋との間では和議を結び、両国の間では貿易も行われた。また、( 5 ) 文字を作り、民族の独自性を維持しようとした。しかし、13世紀に入り北方からおこったモンゴル帝国に滅ぼされた。モンゴル帝国は、第5代 ( 6 ) ・ハンの時代に、現在の北京に冬の都として ( 7 ) を建設し、宋への攻撃を開始した。宋は1276年に首都の ( 8 ) を攻略され、1279年に滅んだ。

問1 空欄 ( 1 ) ~ ( 8 ) にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部①について、このような軍閥をなんというか、漢字二字で答えよ。

問3 下線部②について、ユーラシア東部における諸勢力の自立に関する次のア～エのうち、誤っているものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア 朝鮮半島では新羅が衰退したのち、高句麗が成立した。
- イ 中国東北部では、渤海が契丹に滅ぼされた。
- ウ 雲南では、南詔が滅んで大理がおこった。
- エ 北部ベトナムでは中国からの自立の動きが強まり、11世紀に李朝が成立した。

問4 下線部③について、契丹における漢人およびその文化との関わりについて述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

契丹は、a二重統治体制をとり、北面官が遊牧民の統治を、南面官が漢人農耕民の統治を担当した。一方、契丹族の独自性を保つために契丹文字を作ったが、そのうち、b契丹大字は漢字を参考とした。

- ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤
- ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

問5 下線部④について、次の(1)(2)に答えよ。

- (1) この和議をなんというか答えよ。
- (2) 次の文は、両国でとりかわされた国書の中で和議の内容を記した部分である。ここから読み取れることを述べた下のア～エのうち、誤っているものを一つ選び、記号で答えよ。

大宋皇帝、謹んで誓書を大契丹皇帝に送り届ける。ともに取り決められた親書にしたが、謹んで和睦して盟約を結ぶことをうけたまわる。土産の物品と軍事に備

える費用として、毎年絹二〇万匹と銀一〇万両を、外交使臣を遣わして(中略)雄州で受け渡すことにする。辺境一帯の州・軍は、各々境界を守護し、双方の土地の人民が互いに侵入できないようにする。(中略)田地での耕種・収穫に際しては、南朝・北朝とも騒動を見逃してはならない。

(歴史学研究会編『世界史史料4』。一部改変)

- ア 中国では建前上、「皇帝」は地上世界を統治するただ一人の存在だが、ここでは双方の君主を「皇帝」と称している。
- イ 軍事費に充てるという名目で、絹・銀が契丹から宋に送られた。
- ウ 支配領域は現状維持として、互いに境界を侵犯しないことが定められた。
- エ 互いの位置関係から、宋を南朝、契丹を北朝と称している。

問6 下線部⑤について、契丹国滅亡後の契丹人について述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

中央アジアに逃れた耶律大石は、a西夏を倒してカラ=キタイ(西遼)をたてた。カラ=キタイはのちに、bモンゴル帝国の拡大にともない13世紀に滅んだ。

- ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤
- ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

問7 下線部⑥について、この軍事・行政組織について述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

a300戸をひとつの謀克、10の謀克をひとつの猛安とする組織が形成された。b猛安・謀克には漢人のみによって構成されているものもあった。

- ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤
- ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、後の問（1～6）に答えよ。

中央アジアでイスラームを受け入れたトルコ系のセルジューク族がたてたセルジューク朝は、イラン・イラクの地に南下した。1055年にはバグダードに入城し、初代君主のトゥグリル＝ベクはアッバース朝のカリフから（1）の称号を認められた。①セルジューク朝はイラン系の人材を積極的に登用し、学問の振興もはかった。また、②セルジューク朝は軍人に一定の土地の徴税権を与える制度を用いたが、この徴税権が世襲化された12世紀には地方政権の自立が進んだ。

分裂状態となったセルジューク朝にかわって（2）朝がイランを支配したが、13世紀にモンゴル帝国に滅ぼされた。続いてフレグが率いるモンゴル軍は、1258年にバグダードを陥落させてアッバース朝を滅ぼし、フレグはイル＝ハン国をたててイラン・イラクを治めた。西方への拡大をはかったイル＝ハン国だったが、シリアへの進出はエジプトの（3）朝に阻止された。第7代のガザン＝ハンはみずからイスラーム教に改宗してムスリムの支持を取りつけるとともに、イラン系官僚を積極的に登用した。歴史書『集史』を著した（4）もその一人である。

イル＝ハン国は内部分裂で衰え、14世紀半ばにはチンギスの子孫の王統がとどえた。地方政権が分立するイラン・イラクを征服したのは、中央アジアにおこったティムール朝であった。イラン・イラクを制圧したティムールは、③オスマン帝国やインドのデリー＝スルタン朝と戦い、エジプトの（3）朝とはシリアをめぐる争った。しかし、彼の死後、ティムール朝は分裂し、滅亡した。

ティムール朝の分裂・衰退をうけて、イランでは1501年にサファヴィー朝がおこった。イスマーイール1世は④シーア派の一派を国教とした。第5代のアッバース1世が造営したあらたな都である（5）は、「王の広場」を中心に壮麗な建築物が建ちならぶ大都市となった。⑤サファヴィー朝のもとで発展した文化は、ムガル帝国統治下のインドにも影響を与えた。

問1 空欄（1）～（5）にあてはまる語句をそれぞれの語群から選び、記号で答えよ。

空欄	語群		
（1）ア	ウラマー	イ シャー	ウ スルタン
（2）ア	ゴール	イ ホラズム＝シャー	ウ ムワッヒド
（3）ア	ファーティマ	イ アイユーブ	ウ マムルーク
（4）ア	イブン＝ハルドゥーン	イ ウマル＝ハイヤーム	
		ウ ラシード＝アッディーン	
（5）ア	イスファハーン	イ テヘラン	ウ ベルセポリス

問2 下線部①について、セルジューク朝の人材登用や学問振興策について述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

セルジューク朝の宰相となった<sup>a</sup>ニザーム＝アルムルクは、各地にマドラサと呼ばれる学院を設置し、<sup>b</sup>シーア派の学問を奨励した。

ア	a—正	b—正	イ	a—正	b—誤
ウ	a—誤	b—正	エ	a—誤	b—誤

問3 下線部②について、この制度について述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

この制度は<sup>a</sup>イクター制と呼ばれ、セルジューク朝の前にアッバース朝のカリフを傀儡としていた<sup>b</sup>プワイフ朝が用いた制度であった。

ア	a—正	b—正	イ	a—正	b—誤
ウ	a—誤	b—正	エ	a—誤	b—誤

問4 下線部③について、ティムール朝とオスマン帝国の戦いについて述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選

び、記号で答えよ。

両国は、aアンカラの戦いで激突し、b敗れたティムール朝はアナトリアへの侵攻を断念した。

- ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤  
ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

問5 下線部④について、この一派をなんというか答えよ。

問6 下線部⑤について、当時のインドにおけるイスラーム文化の影響について述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

a北方インドの地方語にベルシア語の要素が合わさったウルドゥー語は、現在のインドの公用語の一つとなっている。また、bイランからもたらされた細密画がインドの伝統絵画と融合してムガル絵画が成立した。

- ア a—正 b—正      イ a—正 b—誤  
ウ a—誤 b—正      エ a—誤 b—誤

〔IV〕 次の文章を読み、後の問 (1～4) に答えよ。

19世紀の後半から世紀末になると、ヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国、日本などが支配地域の拡大を目指し、植民地の獲得を競い合うようになった。こうした動きを、当時の人々は ( 1 ) と呼んだ。

アフリカ大陸では、イギリスがエジプトから①ケープ植民地までをつなぐ縦断政策をとると、②フランスもこれに対抗してアフリカ北西部から中央部へと横断する政策をすすめ、両国は1898年、スーダンの ( 2 ) で衝突した。これを ( 2 ) 事件という。このほかベルギーやドイツ、イタリアなども植民地を獲得し、アフリカ大陸は20世紀は

じめまでに、( 3 ) とリベリアを除いて、ほとんどの土地がヨーロッパ諸国の植民地として分割された。

ヨーロッパ諸国はまたアジアの各地や太平洋の島々もつぎつぎと植民地にしていった。太平洋では、イギリスがオーストラリアを領有し、先住民の ( 4 ) を追いはらいながら、流刑植民地として開拓をすすめていった。他方、アメリカ合衆国は1898年のアメリカ=スペイン戦争の結果、スペインからフィリピンと ( 5 ) を獲得した。またアメリカ合衆国は、1899年および1900年に ( 6 ) を出し、中国への経済進出をはかった。

19世紀には広大な植民地をもつイギリスが世界の政治・経済をリードしたが、しかし、世紀末にはこの覇権もゆらぎはじめた。イギリスは、工業力でアメリカ合衆国とドイツに追いぬかれ、また対外面でも「光榮ある孤立」の立場を捨て、東アジアでのロシアの進出にそなえ、1902年に ( 7 ) を結んだ。

③イギリスにかわってヨーロッパ第1の工業国に躍進したドイツは、海外進出を積極的にすすめた。ドイツ皇帝 ( 8 ) は大海軍の建造に着手し、イギリスもこれに対抗した。日露戦争後、国際関係はイギリス・ドイツ間の対立を軸に展開し、イギリスは英仏協商と英露協商をつうじてフランス・ロシアと結び、ドイツ・オーストリア・イタリアの ( 9 ) に対抗した。ドイツはフランスが優越的な地位をもつ ( 10 ) への進出を試み、1905年と11年の2度にわたり ( 10 ) 事件をおこしたが、失敗におわった。

問1 空欄 ( 1 ) ～ ( 10 ) にあてはまる語句を下の【語群】から選び、記号で答えよ。

【語群】

- |          |            |            |
|----------|------------|------------|
| ア 帝国主義   | イ 孤立主義     | ウ チュニジア    |
| エ 門戸開放宣言 | オ モンロー宣言   | カ ヴィルヘルム2世 |
| キ ファシヨダ  | ク エチオピア    | ケ フリードリヒ2世 |
| コ モロッコ   | サ グアム      | シ タンジール    |
| ス 日英同盟   | セ アボリジニ    | ソ マオリ      |
| タ 三国同盟   | チ アルジェリア   | ツ 三帝同盟     |
| テ ハワイ    | ト 日英通商航海条約 |            |

問2 下線部①について、1899年から1902年にかけて、イギリスはダイヤモンドや金を得るためにオレンジ自由国・トランスヴァール共和国と戦い、両国をケープ植民地に併合した。この戦争を何というか、答えよ。

問3 下線部②について、このころのフランス国内の情勢に関する次の文中の空欄( X )と( Y )に入れる語の組み合わせとして正しいものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

1890年代のフランスでは、反ユダヤ主義の広がりを背景に、ユダヤ系軍人のスパイ冤罪事件である( X )がおこった。この事件に衝撃をうけたユダヤ人ジャーナリストのヘルツルは、ユダヤ人独自の国家を建設しようという( Y )運動をおこした。

- |   |              |           |
|---|--------------|-----------|
| ア | X — ドレフュス事件  | Y — ボグロム  |
| イ | X — ドレフュス事件  | Y — シオニズム |
| ウ | X — プーランジェ事件 | Y — ボグロム  |
| エ | X — プーランジェ事件 | Y — シオニズム |

問4 下線部③について、ドイツが推進した3B政策について、50字程度で説明せよ。